

東京での交換留学

ナポリ東洋大学

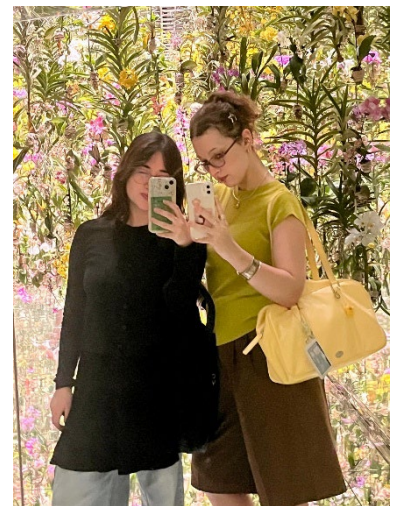
アンナ・ヴェキオネ

学籍番号: k2690019

日本に着いてからの最初の一週間を、今でもはっきりと覚えています。私の毎日は、ただ生き残ることで精一杯でした。見覚えのない街を回り、大雨の中、大きな買い物袋を引かず、たくさんの書類を日本語で記入し続けていました。その時ほど、日本語が自分にとって遠いものを感じられたことはありませんでした。日が続くにつれて、家が恋しい気持ちとか自分はここにふさわしくないという気持ちが強くなっていきました。そして、自分がこの経験に耐えられるのか、よく自問自答していました。

今、その頃のことを思い返すと、とても近くにありながら、とても遠くにも感じられます。まるで、この数か月が一週間の長くて濃い時間にまとめられたようです。気づかぬうちに、東京の町や人々は、少しずつ馴染みのある色に染まっていきました。自然や芸術にあふれた町を歩き、新しい食べ物機会がある毎に味わい、川越・鎌倉・横浜・箱根まで足を伸ばしました。それでも、これらすべては、春学期を共に過ごすことが出来た人々なしでは実現しなかったでしょう。

初日は、ジャスミン、マリア、なたリアは言葉にできないほどのやさしさと温かさを見せてくれました。彼女たちの熱心や賢いにはいつも刺激を受け、言葉に挑戦しようという気持ちにさせられました。また、困難や戸惑いの瞬間も、彼女たちのおかげでずっと軽く感じられました。一緒に過ごした素敵な時間や、東京での新しい現実を少しずつ受け入れられるように助けてくれたことに対して、どれだけ感謝してもきれません。



もちろん、お茶の水女子大の温かい受け入れと専門的なさぽーとも同じように役に立ちました。教授やスタッフ、そして交流のあった学生たちも、言葉の壁で会話が思ったより複雑になってしまう時さえ、ためらわずに手を貸してくれました。特に、李先生と美咲さん



には、春学期を通して安心できる存在でいてくれたことに感謝しています。いつも私がこの経験を
楽しめるように励ましてくれました。

今、春学期のことを振り返って文章にしていると、時間が経つのがどれほど早いに改めて気づ
かされます。正直なところ、残された時間で自分
が建てた目的をすべて達成できるのか、不安もの

があります。残り時間が怖いくらい少なく感じられます。しかし、その感覚に負けずに、
残り経験を背一杯楽しもうと思います。まだ学ぶべきことがたくさんあり、訪れるべき場
所がたくさんあり、出会うべき人がたくさんいます。自分の快感帯を出て、この大学とこ
の町が与えてくれる機会を生かすことを、自分自身に約束します。